大人（だれ）が読んでも面白い

ヤングアダルト　ブックス

ＹＡの本

その２

小平図書館友の会　ＹＡを楽しむ会

この冊子は、2012 年 5 月に作成されたリスト『大人が読んでも面白いYAの本　その1』に続く第2弾です。小平図書館友の会の学習会のひとつ「YA を楽しむ会」のメンバーが、2012 年 2 月から 2020 年 1 月までに読んだ 177 冊の本の中から、おすすめの本 36 冊を選びました。

YA＝ヤングアダルトブックスは、主にティーンエージャー向きの本ですが、大人（だれ）が読んでも十分面白く、読み応えがあります。

紹介文の文章はつたないけれど、紹介した本の面白さはお墨付き！

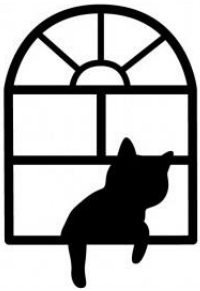
とにかく一冊、手にとってみてください。

一同

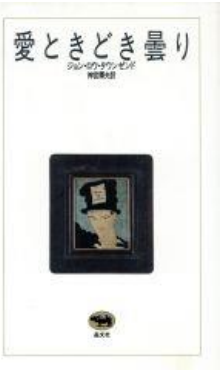
目　次

1『愛ときどき曇り』 4
2『足音がやってくる』 4
3『あまねく神竜住まう国』 5
4『アラバマ物語』 6
5『家なき鳥』 6
6『エリザベス女王のお針子　裏切りの麗しきマント』 7
7『弟の戦争』 8
8『紙の動物園』 8
9『ガラスの家族』 9
10『君が夏を走らせる』 10
11『金色の野辺に唄う』 11
12『九時の月』 12
13『サースキの笛がきこえる』 13
14『スウィングしなけりゃ意味がない』 14
15『千年鬼』 14
16『タチ　はるかなるモンゴルをめざして』 15
17『遠い日の呼び声』 16
18『泥』 17
19『夏の庭』 17
20『のっぽのサラ』 18
21『パーフェクトコピー』 19
22『墓場の少年 ノーボディ・オーエンズの奇妙な生活』 19
23『パンとバラ　ローザとジェイクの物語』 20
24『ピーティ』 21
25『秘密の道をぬけて』 21

26『百年後、ぼくらはここにいないけど』 22
27『100 時間の夜』 23
28『フラダン』 23
29『ボグ・チャイルド』 24
30『ぼくがきみを殺すまで』 24
31『ぼくは O・C・ダニエル』 25
32『３つのミントキャンディー』 26
33『むこう岸』 27
34『雪と珊瑚と』 27
35『わたしたちの島で』 28
36『ワンダー』 29
読んだ本 177 冊一覧　（2012 年 2 月～2020 年 1 月） 30



1『愛ときどき曇り』



ジョン・ロウ・タウンゼンド/作　神宮　輝夫/訳
晶文社　1988 年

17 歳のジェーンの父親は「わが子に伝えたいのは質に対する配慮と、最高のものの価値を知り、あらゆるまがいものをきらう心だ。」と安物のカメラを欲しがる娘に自分のカメラ（保険に入っている）を使ってみることを提案する。そのカメラがきっかけになり、ジェーンは撮影に行ったブライトンでサムという写真学校に通う青年に出会う。

二人をめぐって互いの家族の一人一人が丁寧に描写されていく中で、イギリスのあちこちの場所の光や香り、音までしてくるようである。異性に惹かれていく心模様に思わず引き込まれてしまう。とりわけ祖父や祖母とのティータイムでの会話や、両親とのやりとりから自己を発見して自分を見つめ直す若い人達のういういしさが、とても気持ち良い。

サムの写真はジェーンの影響で豊かな表現力を得、ジェーンはサムと心が通じあった喜びを「わたしは、風の中でゆったりとくつろいだ気分です。空の小鳥もこんな気分なのでしょうか？」と綴る。1984 年に出版された本書のタイトルの意味は、「ときどき曇るけれど、明るくあたたかな愛」。(T.S)

2『足音がやってくる』

マーガレット・マーヒー/作　青木　由紀子/訳
岩波書店　2013 年

バーニーは大叔父の亡くなった日から幽霊のような男の子を見たり、足音を聞くようになる。頭の中に声が聞こえ、その足音が日ごと近づいてくる恐怖、実母の家系には隠された秘密があった。もしも魔法が使え

たら・・・それは楽しいこと？不幸なこと？

特別な力があって自分に従わせようとしても思い通りにはいかない。でも人はいつでも学び変われることができると教えられる。「いくら自分がまちがっていたって、世界の終わりってわけじゃないでしょ。現実の世界じゃ、人はまちがってばかりいるもんよ。」

お互いに分かり合おうとする努力の大切さがここにある。ホラーミステリー風な始まりから家族の絆へと創造力豊かな世界が広がっている。（Na.I）

3『あまねく神竜住まう国』

荻原　規子/作　　徳間書店　　2015 年

地震の多い（神龍の住む）伊豆に頼朝が流されたのは 14 歳。平家全盛期の時代に反権力分子の少年を周りの豪族がどのように扱うのか。地面の下には、神竜が住み、暴れ川には大蛇がいると信じられている時代、この少年は自分達に災いをもたらす「忌みもの」ではないのかと疑う伊豆の豪族たちに命も狙われる状態だったでしょう。

資料が少ないとされるこの時期の頼朝がどうやって地域に馴染んでいったのか、周りの人間の信頼を勝ち取るような何らかの出来事があったのかもしれません。知られざる頼朝の少年時代に思いを馳せて、想像を膨らませるのが楽しいファンタジー小説です。（J.O）

4『アラバマ物語』

ハーパー・リー/作　菊池　重三郎/訳
暮らしの手帖社　1986 年

アメリカ南部アラバマ州に住む 6 歳の少女スカウト。父のアティカス、兄のジェムとお手伝いさんと 4 人で暮らしている。夏休みにおばさんの家に来ているディルと、スカウト兄妹の 3 人が、近所を騒がせながら遊びまわる楽しい毎日。

しかし、そののんびりした田舎町で、婦女暴行事件が起きる。被害者は白人女性。そして逮捕されたのは黒人青年のトムだった。父がまわりの反感を押してトムの弁護を引き受けたことから、ものがたりは展開していく。

はじめて読んだのは、中学の頃。単行本ではなく、母がとっていた『暮らしの手帖』だった。

今また、アメリカでまきおこる　Black Lives Matter（黒人の命もたいせつ）運動に、差別感情の根深さを思う。　1961 年度ピューリッツァー賞受賞。1962 年に、グレゴリーペック主演で映画化。（Nori.I）

5『家なき鳥』

グロリア・ウィーラン/作　代田　亜香子/訳
白水社　2001 年

主人公の少女コリーはたった 13 歳で家の暮らしを楽にするためにお嫁に出される。やっとのことで持参金を工面して嫁いだ先では、若いが重い病気を抱え瀕死の婿ハリと、聖なるガンジス川で身を清めれば息子の命は助かると信じる両親、妹のシャンドラが暮らしていた。これでもか

と厳しい運命に晒されるコリーだが、不思議と暗さを感じない。知恵とユーモアで自分の心を守り、義母に対抗しようとするいたずらの数々は痛快だ。

後半は誰でも羨むような幸せな人生へと歯車が回っていく。何より力になったのは、お母さんから習い身に付けた刺繍の技術と、教師だった義父から習った読み書き、本を読めるようになって知ったインドの偉大な詩人タゴールの詩集だった。コリーの刺繍は絵が生きているみたいに動き出す。インド社会の抱える暗い闇と、それに負けずに生きる女性のたくましさ、豊かさの両面が描き出され、爽やかな読後感が味わえる。(J.S)

6『エリザベス女王のお針子　裏切りの麗しきマント』

ケイト・ペニントン/作　　柳井　薫/訳

徳間書店　　2011 年

エリザベス朝時代を舞台に、女王を巡る陰謀に巻き込まれてしまったお針子のメアリー。母を幼い頃に亡くし、さらに父親を殺されて一人になっても健気に生きている。１３歳ながら針仕事の腕は女王にも認められるほどで、夢は絹の服や宝石を身につけることではなく自分の手で美しいドレスを作ること！誰が敵で味方か、サスペンス仕立てにハラハラドキドキしながら、女王を救わんと芯の強い少女は奔走する。史実の人物を織り交ぜながら当時の英国の風景や宗教観が感じられて歴史的にも面白い。きらびやかな衣装や繊細な刺繍、手の込んだ豪華な装飾が目に見えるような美しい作品。(Na.I)

7『弟の戦争』

ロバート・ウェストール/作　原田　勝/訳
徳間書店　1995 年

ぼくの名前はトム。3 歳違いの弟アンディを自分だけの呼び名「フィギス」と呼び可愛がった。「フィギス」とは“たよれるやつ”という意味。弟が生まれる前にぼくは寂しい時に架空の「フィギス」と遊んでいたのだ。

弟の「フィギス」は時々夢を見てうなされた。時には何日も夢の中をさまよってしまう。そしてついにそのころ起こっていた湾岸戦争の 13 歳のイラク兵「ラティーフ」になってしまう。困り果てた両親は病院に連れていく。先生は中近東出身のラシード先生。弟は入院して様子を見ることになる・・・。

毎日のようにテレビで戦争の状況が放映されはじめたころのこと。戦争と人種差別の問題は今も変わっていない。そんなことを考えさせる一冊です。(T.O)

8『紙の動物園』

ケン・リュウ/作　　古沢　嘉通/訳
早川書房　　2017 年

「ぼく」が子どもの時、母さんは包装紙で動物の折り紙を作った。息を吹き込むと、まるで生きている本物の動物のようだった。虎になった。山羊に、鹿に、水牛に、鮫になった。動物たちは吼え、走り、闘い、さまざまなドラマを繰り広げた。「ぼく」は、飽きずに動物たちと遊

んでいた。子どもの間は・・・・。

成長すると「ぼく」は、動物たちを箱に仕舞い、母親とも話をしなくなった。母親が亡くなって数年経ったころ、「ぼく」は偶然に折り紙の虎に出会った。ほどかれて一枚の紙片になったそこには母の書いた文字があった。漢字だ。

母は中国の小さな村に生まれ、父母係累を失い一人ぼっちだった。アメリカ人の花嫁候補としてカタログに載った母さんを父さんが買った。異国で孤独だった母にとって「ぼく」の存在は希望だった。絶滅した一族の血を引くたった一人の子孫だった。アメリカに生まれ、アメリカで育ち、アメリカの言語を使う息子に、母は母語を伝えたかった。村の歴史・一族の最後を語りたかった。しかしそれはかなわなかった。最後に残した手紙を、息子は自分で読むことができなかった。(H.S)

9『ガラスの家族』

キャサリン・パターソン/作　岡本　浜江/訳

偕成社　1984 年

幼い時から、里親のところを転々としてきた 11 歳の少女ギリーの物語。やっと出会ったほんとうの家族のような里親のトロッターさんだったが、自分で掘った落とし穴に落ちるようなことをしてしまい、また別れがやって来た。ギリーは言う「人生がそんなにつまんないなら、どうしてトロッターさんは幸せなの？」「つまんないと、いついった？つらいといったんだよ。つらい仕事をせっせとやることくらい幸せなことはない、そうだろう？」トロッターさんのこの言葉が、この一冊をすすめたい思いにつながった。ハッピーエンドではない物語だが、表現にちょっとしたユーモアもある。例えば「アーネストに、お得意のこわい顔のうち

でも、もっともおそろしい、ドラキュラとゴジラのあいの子のような顔をしてやった。すると少年のきたない顔は、歯みがきのふたが排水口にすいこまれるのよりも早く、ひっこんでしまった」等々。読み易い文章で、少女の内面を描いている。生きて行く上で励ましとなる一冊だと思う。1979年ニューベリー賞の次点。(Y.H)

10『君が夏を走らせる』

瀬尾　まいこ/作　新潮社　2017 年

金髪にピアス、ろくに学校にも行かず、かといって夢中になれるものもなく過ごしていた太田(高 2、17 才）のもとに、先輩から娘（鈴香　1 才 10 か月）の面倒をみてくれと電話が入る。聞けば女房が切迫流産のため入院することになったという。しぶしぶみることになったものの、泣き止まないは、食べないはー。悪戦苦闘しながらも、いっしょにままごとや、お人形遊びをまじめに付き合っているうち、心が通うようになる。

一か月が過ぎ、鈴香のママが無事出産。お役目も終わる。太田にとってもこの夏は大きな経験をすることになった。鈴香のお友達の若いママたちと話しをしたり、大いに振り回された夏だったが、太田にとってはかけがえのないひと夏の思い出になったにちがいない。ありがとう！二度ともどらぬ青春に太田は先輩にきっと最敬礼をしたに違いない。

ところで鈴香は別れがすんなりできたかな？温かい涙あふれるひと夏の奮戦記。(S.W)

11『金色の野辺に唄う』

あさの　あつこ/作　　小学館　　2008 年

山陰の秋の一日、92 歳の松恵が生涯を閉じようとしている。100 年近く生きれば　枯れ、悟り、思い残すこともなく旅立てるだろうか？

人は大きな川のような流れの中で、傷ついたり傷つけたりしながら生き、そして死んでいく。松恵は先だった夫が今際の際に発した言葉を思い出す。

「奈緒子は誰の子だ･･･」。穏やかだった夫が疑念を抱いていたとは！！！息子、娘、孫、曾孫、かかわった周りの人たちの人生が語られます。疑惑、憎悪、嫉妬、葛藤、そしてもちろん愛情を抱えて生きる人間たちの切なさを穏やかに受け止め生きた松恵。

松恵の死によって呼び起こされたそれぞれの人生の重要な一瞬を、いくつもの視点からすくい上げ読者の心を揺さぶる。

特に両親に似ず優れて美しくうまれた次女奈緒子はその疑念のために父親に疎まれ、内面に激しい渇きと孤独を抱き、切望に身を任せながら満たされない人間の業に苦しむ。絵の好きな多感な少年に育った奈緒子の息子東眞が描いた柿の絵が松恵を慰めることになり、その絵は松恵の望みで棺に入れられ共に旅立つ。柿の炎のような朱色、祭壇を飾った 100 本のリンドウの青、が目に残る。金色の稲穂の波の中を葬列は進んでいく。(K.U)

12『九時の月』

デボラ・エリス/作　もりうち　すみこ/訳
さ・え・ら書房　2017 年

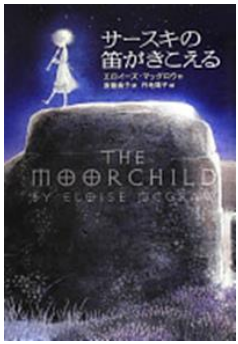
舞台は、イラン・イラク戦争の終わったころのイランです。街には革命防衛隊が我が物顔に闊歩し、密告が奨励されていました。物語を読むことも、音楽を聞くことも、アルコールも禁止されていました。

王政支持の裕福な家庭に育った少女ファリンは、学校でも家庭でも居場所のない鬱屈した日々を送っていました。そこにある日、転校生サディーラが現れたのです。二人は語れば語るほど、知れば知るほどに惹かれあって行きました。一瞬も離れたくないのです。

満月の夜、二人は誓い合いました。「これから夜、九時になったら月を見よう。そうすれば離れていても大丈夫だ」と。また「明日死んでもいいように、生きて、勉強して、働こう」と誓い、学年で１位と２位の成績も取りました。しかし、イランでは同性愛は犯罪であり死刑です。二人は防衛隊に捕まり、過酷な運命を歩むことになるのです。

あとがきによると著者は実在の女性から聞いた話を小説にしたということです。今、この時、地球上のどこかで、このようなむごいことが起こっていると思うと、胸が痛いです。（H.S）

13『サースキの笛がきこえる』



エロイーズ・マッグロウ/作　斎藤　倫子/訳

偕成社　2012 年

「この子は、とりかえ子じゃないだろうか。」というベスの独り言から始まる。主人公のサースキは人間の赤ちゃんととりかえられた妖精の「とりかえ子」。人間と妖精の間に生まれたことから妖精界を追放され、ヤノとアンワラ（ベスの娘）夫婦の元へ。サースキはやがて自分が妖精であったことを忘れていくが、毎日の生活はどこか居心地が悪く、村の子どもたちからも苛められる。両親も時にサースキは異様な子どもに見えたが、ベスはサースキのことを暖かく見守り続ける。荒地で出会った山羊飼いのタムとも大変気が合った。サースキはバグパイプをタムは牧笛を奏でる。素直に心を打ち明けられる唯一無二の存在であるが、タムもサースキが妖精じゃないかと薄々感じている。

サースキの全ての記憶が蘇った夏至祭の前夜、ヤノとアンワラの本当の子どもを取り返すために妖精の塚に忍び込む。そのことが最後のアンフラへの最高の贈り物だと信じて。妖精ティンクワと駆け引きをし、タムと共に塚の奥へと入って行く。塚の中は妖精とその声であふれ、活気に満ちていた…妖精の王子が塚に戻ってくるまでに子どもを取り返せるのか固唾を飲んで読んだ。

村人たちが屋根にいるサースキに敵意丸出しで向かって行った時、ヤノは「おれたち家族の問題だ。手を出すな！」とどなった。その後降りて来たサースキをしっかりと受け止める。そこには確かな親の愛があり、揺るぎない親子関係が築かれていたのだと思いたい！(Kiyo.U)

14『スウィングしなけりゃ意味がない』

佐藤 亜紀/作　　KADOKAWA　　2017 年

小説の舞台は第 2 次世界大戦のナチスドイツ。敵国であるアメリカの音楽＝ジャズを聴くなどとんでもない、という世の中。でも、好きなものは好き。聴きたいものは聴きたいのだ。かくして、主人公のエディは、ナチス警察の摘発をからくもかわし、時にはつかまり、痛めつけられつつも、ジャズを聴くことを諦めない。彼を待ち受けるのは・・・。

当時のきまじめで息苦しい日本を思うと、他国とはいえ、こんなにも自由な感性をもった若者たちを描き出した作者に感心してしまう。
日本人作家の筆になるドイツ少年の物語。（Nori.I）

15『千年鬼』

西條　奈加/作　　徳間書店　　2012 年

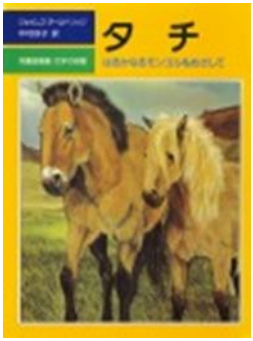
人が悲しみや怒りを感じて救いがない時、その思いが膨らむと憎しみや恨みとなって、人の心に宿るようになることがあります。これは、知恵を授かった人間特有の感情とも言えますがその恨みが爆発してしまう前に、もしもそれが起こった成り行きを客観的に見ることができれば、あるいは、正しい真実を知ることができれば、心の爆発を防げるかもしれません。

千年鬼では「鬼の芽（恨みの芽）」を宿している人に「過去見」をさせてくれる小鬼がいるのです。果たしてその効果は？そして、後半では、この小鬼がなぜ「鬼の芽」を摘もうとしているのか、千年という長きに渡り鬼

の芽となる宿業を繰り返す魂を救おうとしている理由が分かります。
「魂、宿業、輪廻、死」等々の仏教的要素をバックボーンにした時代ファンタジー小説です。(J.O)

16『タチ　はるかなるモンゴルをめざして』

ジェイムズ・オールドリッジ/作　中村　妙子/訳
評論社　1977 年



この物語は、モンゴル人の少年バリュートとイギリス人の少女キティーの間で交わされた多くの手紙で成り立っている。バリュートが絶滅種の蒙古野馬を見つけたというニュースは世界中に広まり、動物学者であるキティーの祖父は、種の保護のために、野馬の中で、一際目立った「タチ」とキティーの飼い仔馬の「ピープ」との交配を試みようとする。「タチ」は、そのためにはるばるモンゴルからイギリスのウェールズの保護地区へと送られるが、信じ難いことに、しばらくして「ピープ」を伴ってそこから失踪してしまう…。イギリスから海を渡り、ヨーロッパの国々を駆け抜け、そしてアジアへとユーラシア大陸を横断する「タチ」と「ピープ」の過酷なまでの旅が繰り広げられる。はるかなる故郷のモンゴルを目指して、途中大きな傷を負いながらも東へとひたすら突き進む「タチ」と彼に忠実にひたむきに付き従う「ピープ」。二頭の馬の想像を超える道中のできごとは、二人の交わされた手紙から窺える。バリュートとキティーは、一喜一憂しながらも二頭の馬の無事を祈り続ける…とても感動的な作品でおすすめの一冊。(Kiyo.U)

17『遠い日の呼び声』

ロバート・ウェストール/作　野沢　佳織/訳

徳間書店　2014 年

「ぼくはウエストールが好きだ」と言った宮崎駿が描いた表紙の中に、短編が９つ収められていますが、「遠い日の呼び声」と言うタイトルの作品はありません。

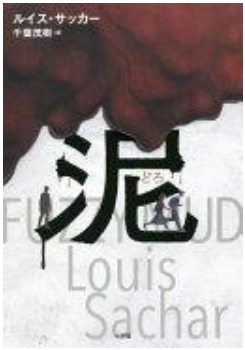
本書に収められた作品の多くが過去を回想するかたちで語られていること、それらが今も主人公のそして私たちの心に呼びかけてくるような忘れられない過去であることから名付けられました。

テーマの多くが、戦時下のこどもたち（空襲の夜に）、父と息子の相克｛赤い館の時計、ロージーが見た光｝、イギリス社会の階級差（遠い夏、テニスコートで）、時にはゾ～っとするホラータッチのもの（家に棲むもの）、そしてウエストールの大好きな猫（じいちゃんの猫、のほか数編に）などです。そのほか真に自分らしい生きがいを求めていた女性ジラが墓地でふと見つけた３００年前に生きた「ヘンリー・マールバラ」という男の墓に興味を持ち、それを夢中で調べるうちにそれを機に作家としての自分に目覚めていく物語です。見方によっては自分勝手で我儘な女性ですがその疾走感に妙に惹かれます。

人間へ暖かい視線を向けながらも全編の読後にはせつなさ、苦さが残ります。

ひとが生きていくことの厳しさなのかもしれません。(K.U)

18『泥』



ルイス・サッカー/作　千葉　茂樹/訳

小学館　2018 年

ペンシルベニア州ヒースクリフにある私立校、ウッドリッジ・アカデミーは立ち入り禁止の広い森に囲まれている。そこで秘密裏に作られているのは、人口が爆発的に増え続ける地球の未来をも救えるとされるエネルギー、バイオクリーン。人体には無害とされていたが、突然変異で周囲の森に粘り気のある泥として拡散し始めていた。5 年生の女の子タマヤ、タマヤが兄の様に慕っていた 7 年生のマーシャル、札付きの悪でマーシャルをいじめの標的にしているチャド。ある日、その森でマーシャルに襲いかかろうとするチャドの顔に、タマヤはそのねばねばする泥を咄嗟に掴み投げつけた。その夜タマヤの手はチクチクと痛み始め、皮膚が粉っぽく剥がれてくる。翌日学校ではチャドが帰宅せず行方不明と大騒ぎになっていた。友達にいい子ちゃんとからかわれて悩んでいたタマヤが、学園の十の美徳を胸に勇敢に忍耐強く、気品をもって、事態を解決に導くところが爽快。

訳者あとがきには、この本はエコ・バイオテラー・ミステリー・スリラー・コメディとあるが、世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るっている今読むと、その恐怖は現実さを増す。(J.S)

19『夏の庭』

湯本　香樹実/作　　新潮文庫刊　　1994 年

小学 6 年生の男子 3 人組。山下君のおばあちゃんが亡くなりお葬式に行ったことから、3 人は死ぬことについて考えるようになります。「死んだ人、見たことあ

る？」「死んだ人はものすごく重いんだよ」「息をしていないとか、心臓が止まったという以外にどこがどう違うんだろう」・・・・身近な人の死に出会ったことのない彼らには疑問がいっぱいです。お化けや幽霊の怖い彼らにとって、死の恐怖は絶大です。

町内に住んでいる一人暮らしのおじいちゃんが、どうやらもうすぐ死にそうだという噂を聞いてきた３人は、このおじいちゃんの死の瞬間を見ようと偵察を始めます。ショッキングな出だしですが、おじいちゃんとの思いがけない心温まる交流から、３人は多くのものを学び取り、生涯忘れられない夏休みの思い出となりました。(H.S)

20『のっぽのサラ』

パトリシア・マクラクラン/作　金原　瑞人/訳

徳間書店　2003 年

緑の草原をぬけて、わたしたちの家に、「のっぽのサラ」がやってきました。パパの新しい奥さんになるかもしれない「サラ」、私たちの新しいママになるかもしれない「サラ」がやってきたのです。海辺に住んでいた「サラ」はのっぽでぶさいくでしたが、いろいろなことを教えてくれました。

私も弟のケイレブも、まだ一度もみたことのない、サラの住んでいた海のこと、ドライフラワーの作り方、そして歌もうたってくれました。サラの描いた草原の絵をみていた弟のケイレブが言いました。「この絵には、海の色がない」そして、ひどい嵐が去った朝、サラは馬車に乗って町にでかけていきました。やってきた時と同じ黄色の帽子をかぶって・・・。サラは帰ってきてくれるだろうか。私たちのママになってくれるだろうか。

黄色い帽子をかぶってサラは帰ってきました。サラはにっこり笑って紙づつみを渡しました。中には色鉛筆が三本、緑と灰色、それに海の青色が。(Nobu.I)

21『パーフェクトコピー』

アンドレアス・エシュバッハ/作　山崎　恒裕/訳
ポプラ社　2004 年

近未来のクローン人間のSFだったらついていけないのではと、心配しながら読み始めたら、2002 年にドイツで発行された本書は実はヒューマンな、がっしりとした話だった。

チェロの天才と父親に期待され続けた高校生のヴォルフガングは、ある時自分の求めていたのは上達することより、世間の評価だったことに気づくが、父親の願いであっても手の届かぬものは届かないと苦しむ。意を決して自分の演奏を聴いてもらった教授の言葉「世にいう天賦の才とは、つまるところ、ひとつのことにひたすら打ちこむだけの心の準備があるかどうかということではないだろうか？ここでいう心の準備とは、何かに立ちむかう情熱なのだが、それは他人に押しつけられて生まれるものではなく、自分の内からおのずと出てこなくちゃいけない」と。自分の進む方向に迷ったら心に聞いてみたい言葉に出会えそうな一書である。（T.S）

22『墓場の少年 ノーボディ・オーエンズの奇妙な生活』

ニール・ゲイマン/作　　金原　瑞人/訳
KADOKAWA　2010 年

ある晩、家に押し入った一味は、父母を殺し、赤ん坊のボッドも襲おうとした。からくも隣の墓地に逃げ込んだボッド。墓場では、そこに葬られた者たちが幸せな眠りの生活を過ごしていたが、迷い込んだ彼をかわいそうに思い、ノーボディと名づけ育て始める。

やがてボッドは墓場で幸せに暮らすようになるの

だが、その後もなんども襲いかかる犯人一味。なぜ、ボッドは執拗に追われるのか。謎をめぐって、冒険活劇が始まる。読み終わったときに、死後の世界も悪くないんじゃないかなどと思いだすから不思議。
カーネギー賞とニューベリー賞をダブル受賞。映画化の予定とのこと。
（Nori.I）

23『パンとバラ　ローザとジェイクの物語』

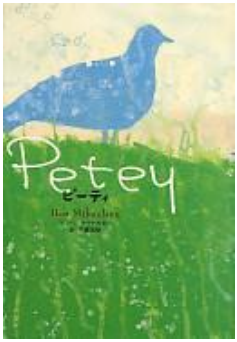
キャサリン・パターソン/作　岡本　浜江/訳
偕成社　2012 年

今からおよそ 100 年前の 1912 年にアメリカでおこった「イタリア移民労働者たちのストライキ」という歴史的事実にもとづいて、キャサリン・パターソンが書き上げた物語とのことです。

主人公のひとり、13 歳のジェイクは、呑んだくれの父親と二人暮らし。年齢をごまかして織物工場で働いていました。仲間達の情熱や歌声に惹かれてストライキに参加します。

もう一人の主人公、14 歳のローザは、イタリア移民の娘。「ストライキはいけない」と　諭す学校のフィンチ先生を信じながらも、母や姉の揚げるデモのプラカードに、「パンがほしい、そして、バラも」と書きます。実際に起こったストライキが舞台になっており、考えさせられる物語です。
(Nobu.I)

24『ピーティ』



ベン・マイケルセン/作　千葉　茂樹/訳
鈴木出版　2010 年

1900 年代のアメリカを舞台に重い脳性まひの障害を持つピーティの一生が描かれる。1920 年当時はまだ障害や病気への理解も十分ではなく、ピーティは 2 歳の時から精神病患者収容施設に入所させられる。自分では動けず置かれた境遇は過酷ではあったが、ピーティの眼差しはいつも優しく、その純心さは周りの人を暖かい気持ちにさせてくれた。晩年は介護ホームで暮らし、偶然にトレバーという少年と出会ってピーティの世界は広がる。そして寂しさを抱えていたトレバーもピーティとの出会いによってまた成長していく。自然の光や風にすら感動し、差別意識をとっぱらい支えてくれる友人との出会いや別れを経てピーティは自分の人生を生き切った。重いテーマではあるが、障害があることは不自由だけれど決して不幸なだけではないと思わせてくれた清々しい読後感の作品でした。(Na.I)

25『秘密の道をぬけて』

ロニー・ショッター/作　千葉　茂樹/訳
あすなろ書房　2004 年

1850 年代のアメリカを舞台に、逃亡する黒人家族を必死に助けようとするアマンダの家族の覚悟と勇気が胸を打つ。夜、物音に目をさました 10 歳のアマンダが見たものは・・・翌日の夜までの丸一日が描かれている。逃亡奴隷を自由の地へにがす秘密組織「地下鉄道」を題材に、アマンダの両親は旅の途中でかくまって休む場所を提供する「駅長」。二つの家族の交流を通して、自由とは、人間の尊厳とはなど考えさせられるこ

とが多い。黒人差別や偏見は大人の振る舞いをみて子供たちへと無自覚に伝染していく。大人がそうした目を持たなければアマンダと黒人の少女ハンナのように友達になれるはずなのに。現在のアメリカでもブラック・ライブズ・マターの運動が湧き上がっているのが悲しい。忘れてはいけない歴史がここにもある。命がけで黒人家族を守ろうとしているアマンダの家族はいつか恩返しをという言葉に、「そう、いつかね。でも、それが無理なら、かわりにだれか助けの必要な人にしてあげて」と答える。日本も多種多様な人々が増えており、まだまだ偏見も多い。児童文学の力を借りて共生していける社会を一緒に考えていきたい。（Na.I）

26『百年後、ぼくらはここにいないけど』

長江　優子/作　　講談社　　2016 年

健吾の通う中学で一番のオススメ部活は、ゆったりのんびりの地理歴史部＝略称チレキ。いや、中 2 まではという但し書き付きか。中 3 になって顧問が変わった。新しい顧問は熱血教師。「秋の学習発表会にはジオラマを作る！」。

それだけでも大衝撃なのに、あろうことか健吾は部長になってしまった。ジオラマのタイトルは「百年後の渋谷」。ちょうど渋谷駅を中心とした再開発が進行中だ。心底イヤイヤやっていた健吾なのだが、それではおさまらない状況となり・・・。

未来の「この場所」を想像することは、「過去の自分」を、そして「今の自分」を確認することにつながるのかもしれない。（Nori.I）

27『100 時間の夜』

アンナ・ウォルツ/作　野坂　悦子/訳

フレーベル館　2017 年

私はエミリア、14 才。両親と暮らしていたオランダから、ここニューヨークに逃げてきた。何から逃げてきたって？そう、ネットから。オランダ中の人がツイッターで私の父さんの悪口を言っている。なにがあったのかは私の秘密。

ニューヨークでは不思議な事に遭った。ハリケーンが街を直撃したんだ。ハリケーンで停電したニューヨークで私は 3 人の友達に出会った。暗い夜を子ども 4 人でのりこえ、私は人は変われるんだと知った。

ネットの世界じゃない、目の前の私を信じてくれる友達。100 時間の夜を超えて、新しい私の朝が訪れる。(Y.O)

28『フラダン』

古内　一絵/作　　小峰書店　　2016 年

物語の舞台は、東日本大震災から五年後の福島。工業高校のフラ愛好会が男女混合で「フラガール甲子園」優勝を目指す。女子たちに、個性派ぞろいの四人の男子が加わって、老人施設の慰問、仮設住宅でのフェスティバルへ参加後、フラガール甲子園へと挑む。メンバーは、ごく普通に高校生活を謳歌しているように見えたが、それぞれの思いを心の中に抱え、それがだんだんと透けて見えてくる。震災後は、あまり相手の事情に踏み込めず、お互いの過去の重さも予測がつかず、いつのまにか距離を置いた付き合い方になっていた。フラガール甲子園を通して、厳しい練習に耐え、会長の不在、メンバーの亀裂を乗り越えて、真のフラ愛好会のメンバーになって行く過程が丁寧に描かれている。メンバーのダンスはとても熱くカッコよく、客席からは割れんばかりの拍手が沸き起こった。(Kiyo.U)

29『ボグ・チャイルド』

シヴォーン・ダウド/作　千葉　茂樹/訳
ゴブリン書房　2011 年

1980 年代、南北アイルランドの国境近くの、北アイルランドの町に暮らす高校生のファーガスは、泥炭を盗掘中、湿地（ボグ）で少女の遺体を発見する。何百年も時を経ながらも、泥炭の作用で、遺体は絞殺された姿のまま埋もれていた。

ファーガスの兄は、北アイルランド独立運動で捕らえられ、獄中でのハンガーストライキで余命のカウントダウン中。母は兄の好物の手製の菓子を持って面会に行ったが、兄はただ微笑んで口にしない。父、母それぞれの考えの違いの中で、母は「私はこの土地で結婚しなければよかった」と嘆く。

イギリス支配下にある北アイルランドの不安な社会に生きる若者の姿が丁寧に描かれ、大作だが一気に読ませる作品である。著者は、この本の刊行を待たず、2007 年、47 歳で死去。この作品は 2009 年度のカーネギー賞を受賞する。(Nobu.I)

30『ぼくがきみを殺すまで』

あさの　あつこ/作　　朝日新聞出版　　2018 年

胸が痛く、心に刺さる物語。なぜ戦わなくてはいけないのか、大人たちの勝手な正義に囚われて、自分が生きていくために自分を騙し続けて戦いに赴く少年たち。架空の世界の戦争ではあるが、髪や肌の色が違うだけで同じ人間同志の争い、まさに今の現実の世界と同じ。
主人公のＬが自分を薄く薄く、できるだけ薄く、自分を透かして生きてき

たように、思考を止めてしまわないと生きていけない歪んだ社会。中でも「言葉が死ねば戦いが起こる」という表現が生々しく残る。相手に理解してもらう努力を放棄してしまえば、言葉は無用、言葉の代わりに力が必要になる。それが戦争の始まり。「エルシア、何があっても生き延びて。生きて、また会おう」信じられる友の言葉の力が救いだった。もう一人の主人公でもあるK。それぞれ事情は違えど今では戦場の兵士の一人に過ぎない。多くを失い生き延びてこれからどうしたらいいのか、余韻を残しながら読者に問いかける。

タイトルである『ぼくがきみを殺すまで』は本文にはなく、中には「ぼくがきみを救うまで」または「ぼくはきみを殺さない」とある。このタイトルの意味は・・・。登場人物と同世代のＹＡ世代の子どもたちにぜひ読んでもらいたい。（Na.I）

31『ぼくはＯ・Ｃ・ダニエル』

ウェスリー・キング/作　大西　昧/訳

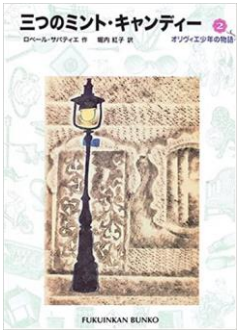
鈴木出版　2017 年

ダニエルはどこにでもいる普通の男の子と思われたい十三歳。そのためには好きでもないアメフトの練習もする。憧れの女の子のパーティーに行った時にはキスをして真っ赤になる。

でもダニエルは自分が普通でない事をだれよりもよく知っている。毎晩、歯ぐきから血が出るまで歯を磨き続け、手の皮がむけるほど手を洗い続ける。ダニエルはＯＣＤ、強迫性障害だ。それを教えてくれたのは、精神障害で人と喋れないサラだった。サラは亡くなった父親の謎を解くようにダニエルに協力を頼むのだが・・・。

普通でない事を隠して苦しんでいる人に贈りたい一冊。心を閉じてしまわないで。きっとだれかがあなたの心のそばにいる。(Y.O)

32『３つのミントキャンディー』
（オリビエ少年の物語②）



ロベール・サバティエ/作　堀内　紅子/訳

福音館書店　2005 年

オリビエ少年の物語はサバティエの自伝的小説で 3 部作になっています。

1 部の「ラバ通りの人々」は：　オリビエ少年はある日、一緒に寝ていた母親が朝、冷たくなっていることに気づきます。孤児になった少年が孤独と哀しみと闘いながらも、まだ 1930 年代の貧しい庶民の町だった「パリのラバ通り」の大人たちとの交流の中でなんとか成長していきます。10 歳の男の子が夜の闇の恐怖に怯え、にぎやかな街や、マッチの火に惹かれてしまうという切ない思い出が語られています。

2 部の「３つのミントキャンディー」は：　少年オリビエが、裕福な叔母の家に引き取られその家の家族と馴染んでいく様を描いた話です。夜な夜なパリの街をウロウロしていた生活から一変して当時の新興ブルジョア階級の生活に馴染んで自分の居場所を探そうとする様子がなんとも健気です。

3 部の「ソーグの人々」は：　祖父母の家で過ごしたひと夏の物語です。豊かな自然と昔ながらの素朴な生活と祖父母の絶対的な愛に触れてオリビエ少年の心は癒されていきます。

全体を通して、作者の記憶力には感心します。まるで精密画のようにオリビエから見た当時の街や家や人物のディテールを描写しているのです。まるでその場に一緒にいるようなリアリティを感じます。オリビエ少年と一緒にフランスのひと昔前の時代を訪れてみませんか。（J.O）

33『むこう岸』

安田　夏菜/作　　講談社　　2018 年

猛勉強して父親の望み通りに難関私立中学に進学したものの、落ちこぼれて公立中学に転校する和真。父親が交通事故で亡くなり、母親が心を病んで働けず、幼い妹の世話をしながら生活保護を受けて暮らす樹希。互いに自分の将来に希望が見いだせずにいる中学 3 年生。ある日歩道橋で身を乗り出していた和真を、通りがかった樹希が咄嗟に引きとめ仕方なく、「カフェ・居場所」に連れて行く。そこは樹希が唯一頼りにできる大人、マスターが開いているお店だった。和真はそこで樹希を姉のように慕うアベルに勉強を教えるうちに、教え方がうまいとアベルに褒められ、頼られることで少しずつ自分を取り戻していく。最初は互いの間に広い川が流れていると思うほど、向こう岸にいた二人だが、居場所を共にしていくうち、相手を理解しようと歩み寄る。いつも本音でぶつかってくる樹希に翻弄されながらも、樹希の将来の為に、生活保護法について、今まで身に着けた学力で調べ上げる和真。二人に芽生えるまっすぐな友情に胸が熱くなる。(J.S)

34『雪と珊瑚と』

梨木　香歩/作　　KADOKAWA　2012 年

「赤ちゃん、お預かりします。」そう書かれた貼り紙を民家の軒先で見たのは、珊瑚が赤ん坊の雪を抱えて途方に暮れていた時だった。

雪の日に生まれたから雪と名付けた。あの日、雪を取り上げてくれたのは、同じアパートに住む友人の助産婦見習いだった。

病院でお産するお金すら惜しまなくてはいけなかった。

珊瑚はニ十一歳。二十歳で結婚して子どもを産み、離婚した。父はなく、頼るべき母は行方不明だった。食べていくためには雪を預けて働かなくてはいけなかった。

貼り紙を出していたのは六十代のくららさんという老婦人だった。その昔、海外の修道院で働いていたくららさんは慈愛を持って人を助け、それを自らの幸せと感じる人だった。

くららさんに料理を習った珊瑚は、無農薬野菜を使ったカフェを林の中の古民家で営むことになる。農家さんや大家さん、たくさんの人が力になってくれた。他人の好意や親切を時に「同情」や「施し」を買っているように感じる珊瑚の心の葛藤が幾重にも描かれている。

おいしいものを愛する人と食べる幸せを、しみじみ感じさせてくれる本だ。(Y.O)

35『わたしたちの島で』

アストリッド・リンドグレーン/作　尾崎　義/訳
岩波書店 2014 年

６月のある朝、ストックホルムの海岸通りの船着き場から、小型定期船のウミガラス丸が、ウミガラス島へ向けて出港します。その夕方、船がウミガラス島に着岸すると、岸壁には７歳ぐらいの女の子、チョルベンが、島の番人のように、大きな犬「水夫さん」を連れて立っています。チョルベンは、メルケル氏が夏の家として借りたスニッケル荘の隣の家の子どもです。

この物語は、このチョルベンを軸としてのメルケル一家の夏の家でのお話しです。スウェーデンは、福祉がゆきとどき、この物語のように、短い

夏に、子どもたちが十分に日光の下で遊ぶさまは、読者もまた、ともにうれしいです。この本が出版されてまもなく、夫に同伴して、このスウェーデンのストックホルムに滞在して、「この島らしき島」を訪れました。

作者のリンドグレーンは、1958 年に「国際アンデルセン賞」を得ています。(Nobu.I)

36『ワンダー』

R・J・パラシオ/作　　中井　はるの/訳

ほるぷ出版　2015 年

悪気なく人を傷つけてしまうことって確かにある。オーガストはいつも傷つけられていた。生まれつき顔に障がいがあるオーガストを見ると、人はみな怖いものを見たかのように顔を背ける。やっと入った学校ではみんなにいじめられる。

でも、人は見た目ではなく、その行いで評価される。多くの試練を経て、オーガストには友達ができた。オーガストの存在がみんなの心を動かしたんだ。勇気を持って人に親切にすることの大切さを伝えてくれる、家族愛と友情が溢れる一冊。

続編『もうひとつのワンダー』はいじめっ子たちからの視点で描かれていて、これも是非お薦めしたい一冊。(Y.O)

読んだ本 177 冊一覧　（2012 年 2 月～2020 年 1 月）

月日	書名	著者名	出版社
2012/2	金色の野辺に唄う	あさの　あつこ	小学館
	アナザー修学旅行	有沢佳映	講談社
2012/4	アンネの日記　完全版	アンネ・フランク	文藝春秋
	ブリジンガメンの魔法の宝石	アラン・ガーナー	評論社
2012/6	マイ・アントニーア	ウィラ・キャザー	みすず書房
	タチ　はるかなるモンゴルをめざして	ジェイムズ・オールドリッジ	評論社
2012/7	彼女のためにぼくができること	クリス・クラッチャー	あかね書房
	夏の庭	湯本香樹実	新潮社
2012/8	二年間の休暇	ジュール・ヴェルヌ	岩波書店
	蝿の王	ウイリアム・ゴールデイング	集英社
2012/9	偉大なるしゅららぼん	万城目　学	集英社
	家なき鳥	グロリア・ウィーラン	白水社
2012/10	りんご畑のマーティンピピン	ファージョン	岩波書店
	真夜中の動物園	ソーニャ・ハートネット	主婦の友社
2012/11	顔のない男	イザベル・ホランド	冨山房
	ユタとふしぎな仲間たち	三浦哲郎	毎日新聞社
2012/12	クリスマスの思い出	トルーマン・カポーティ	文藝春秋
	雨あがりのメデジン	アルフレッド・ゴメス＝セルダ	鈴木出版
2013/1	のっぽのサラ	パトリシア・マクラクラン	徳間書店
	草原のサラ	パトリシア・マクラクラン	徳間書店
2013/2	シフト	ジェニファー・ブラッドベリ	福音館書店
	小さな魚	エリック・c・ホガード	冨山房
2013/3	空色勾玉	荻原規子	福武書店
	白鳥異伝	荻原規子	福武書店
	薄紅天女	荻原規子	徳間書店

月日	書名	著者名	出版社
2013/4	ヘリオット先生と動物たちの8つの物語	ジェイムズ・ヘリオット	集英社
	サースキの笛がきこえる	エロイーズ・マッグロウ	偕成社
2013/5	アラバマ物語	ハーバー・リー	暮しの手帖社
	フラワー・ベイビー	アン・ファイン	評論社
2013/6	サラスの旅	シヴォーン・ダウド	ゴブリン書房
	翼ひろげて	ロビン・クライン	偕成社
2013/7	ギャザリング・ブルー	ロイス・ローリー	新評論
	スウィート・メモリーズ	ナタリー・キンシー＝ワーノック	金の星社
2013/8	DVD 鑑賞 『アラバマ物語』		
2013/9	おばあちゃんはハーレーにのって	ニーナ・ボーデン	偕成社
	モッキンバード	キャスリン・アースキン	明石書店
2013/10	ギョロ目のジェラルド	アン・ファイン	講談社
	アーサー王と円卓の騎士	ローズマリ・サトクリフ	原書房
2013/11	嵐にいななく	L・S・マシューズ	小学館
	ロバになったトム	アン・ロレンス	徳間書店
2013/12	まぼろしの小さい犬	フィリパ・ピアス	岩波書店
	わたしは倒れて血を流す	イェニー・ヤーゲルフェルト	岩波書店
2014/1	幽霊の恋人たち	アン・ローレンス	偕成社
	長い長いお医者さんの話	カレル・チャペック	岩波書店
2014/2	ゲド戦記　1・2	ル＝グウィン	岩波書店
	アンブラと4人の王子	アン・ローレンス	偕成社
2014/3	希望（ホープ）のいる町	ジョーン・バウアー	作品社
	キアズマ	近藤史恵	新潮社
2014/4	メイおばちゃんの庭	C・ライラント	あかね書房
	ホビットの冒険	J.R.R.トールキン	岩波書店

月日	書名	著者名	出版社
2014/5	クローディアの秘密	E.L.カニグズバーグ	岩波書店
	小さな雪の町の物語	杉　みき子	童心社
	子どもの本のまなざし　新装版	清水真砂子	洋泉社
2014/6	指輪物語（1～2）	J.R.R.トールキン	評論社
2014/7	魔女ジェニファとわたし	E.L.カニグズバーグ	岩波書店
	時計坂の家	高楼方子	リブリオ出版
2014/8	DVD鑑賞 『銀河鉄道の夜』		
2014/9	サティン入江のなぞ	フイリパ・ピアス	岩波書店
	ベーオウルフ　妖怪と竜と英雄の物語	ローズマリ・サトクリフ	原書房
2014/10	銀河鉄道の夜	宮沢賢治	岩波書店
2014/11	庭師の娘	ジークリート・ラウベ	岩波書店
	ねずみ女房	ルーマー・ゴッデン	福音館書店
2014/12	寺町三丁目十一番地	渡辺茂男	福音館書店
	クリスマスの猫	ロバート・ウェストール	徳間書店
2015/1	ディダコイ	R・ゴッデン	評論社
	真夜中の電話	ロバート・ウェストール	徳間書店
2015/2	ムーミン谷の彗星	トーベ・ヤンソン	講談社
	たのしいムーミン一家	トーベ・ヤンソン	講談社
2015/3	遠い日の呼び声	ロバート・ウェストール	徳間書店
	ゆびぬき小路の秘密	小風　さち	福音館書店
2015/4	クラバート	オトフリート＝プロイスラー	偕成社
	ローズの小さな図書館	キンバリー・ウィリス・ホルト	徳間書店
2015/5	あけぼの子どもの森公園へ行く		
2015/6	三つのミント・キャンディー	ロベール・サバティエ	福音館書店
	あまねく神竜住まう国	荻原規子	徳間書店

月日	書名	著者名	出版社
2015/7	花や咲く咲く	あさのあつこ	実業之日本社
	パンとバラ　ローザとジェイクの物語	キャサリン・パターソン	偕成社
2015/8	イッカククジラがきた浜辺	マイクル・モーパーゴ	ぬぷん児童図書出版
	フランケンシュタイン	メアリー・シェリー	新潮社
2015/9	ツバメ号とアマゾン号	アーサー・ランサム	岩波書店
	ガラスの家族	キャサリン・パターソン	偕成社
2015/10	千年鬼	西條奈加	徳間書店
	わたしたちの島で	リンドグレーン	岩波書店
2015/11	ハロウィーンの魔法	ルーマ・ゴッデン	偕成社
	きみに出会うとき	レベッカ・ステッド	東京創元社
2015/12	アドリア海の奇跡	ジョアン・マヌエル・ジズベルト	徳間書店
	ヤンネ、ぼくの友だち	ペーテル・ポール	徳間書店
2016/1	片手いっぱいの星	ラフィク・シャミ	岩波書店
	ピーティ	ベン・マイケルセン	鈴木出版
2016/2	屋上のウインドノーツ	額賀澪	文藝春秋
	わたしの心のなか	シャロン・M・ドレイパー	鈴木出版
2016/3	ラヴジョイの庭	ルーマ・ゴッデン	偕成社
	明日の子供たち	有川浩	幻冬舎
2016/4	戦火の三匹　ロンドン大脱出	ミーガン・リクス	徳間書店
	エリザベス女王のお針子	ケイト・ペニントン	徳間書店
2016/5	チポロ	菅野雪虫	講談社
	クリスピン	アヴィ	求竜堂
2016/6	ワンダー	R.J.パラシオ	ほるぷ出版
	メッセンジャー	ロイス・ローリー	新評論

月日	書名	著者名	出版社
2016/7	島はぼくらと	辻村深月	講談社
	ゲド戦記　4　帰還	ル＝グウイン	岩波書店
2016/8	DVD 鑑賞『ショコラ』		
2016/9	肩胛骨は翼のなごり	デイヴィッド・アーモンド	東京創元社
	二つの旅の終わりに	エイダン・チェンバーズ	徳間書店
2016/10	はるかな国の兄弟	リンドグレーン	岩波書店
	海辺の宝もの	ヘレン・ブッシュ	あすなろ書房
2016/11	弟の戦争	ロバート・ウェストール	徳間書店
	バレエ・ダンサー（上・下）	ルーマ・ゴッデン	偕成社
2016/12	バドの扉がひらくとき	クリストファー・ポール・カーティス	徳間書店
	山賊のむすめローニャ	リンドグレーン	岩波書店
2017/1	鹿の王（上・下）	上橋菜穂子	KADOKAWA
2017/2	カラフル	森　絵都	理論社
	オリーブの海	ケヴィン・ヘンクス	白水社
2017/3	ティーパーティーの謎	E.L.カニグズバーグ	岩波書店
	コンビニたそがれ堂	村山早紀	ポプラ社
2017/4	川の少年	ティム・ボウラー	早川書房
	少年キム	ラドヤード・キプリング	岩波書店
2017/5	いろいろな性、いろいろな生き方（1，2，3）	渡辺大輔	ポプラ社
2017/6	サリーの帰る家	エリザベス・オハラ	さ・え・ら書房
	サリーのえらぶ道	エリザベス・オハラ	さ・え・ら書房
	サリーの愛する人	エリザベス・オハラ	さ・え・ら書房
2017/7	太陽と月の大地	コンチャ・ロペス＝ナルバエス	福音館書店
	影　小さな5つの話	カニグズバーグ	岩波書店

月日	書名	著者名	出版社
2017/8	DVD 鑑賞『時をかける少女』		
2017/9	100時間の夜	アンナ・ウォルツ	フレーベル館
	海辺の王国	ロバート・ウェストール	徳間書店
2017/10	銀の馬車	C・アドラー	金の星社
	ワトソン一家に天使がやってくるとき	クリストファー・ポール・カーティス	くもん出版
2017/11	こんとんじいちゃんの裏庭	村上しいこ	小学館
	白いタカ	エリオット・アーノルド	岩波書店
2017/12	スウィングしなけりゃ意味がない	佐藤亜紀	KADOKAWA
2018/1	さよならクリームソーダ	額賀澪	文藝春秋
	紙の動物園	ケン・リュウ	早川書房
2018/2	アンドロイドは電気羊の夢を見るか？	フィリップ・K・ディック	早川書房
	もうひとつの WONDER	R.J.パラシオ	ほるぷ出版
2018/3	九時の月	デボラ・エリス	さ・え・ら書房
	小やぎのかんむり	市川朔久子	講談社
2018/4	雪と珊瑚と	梨木香歩	KADOKAWA
	透明人間のくつ下	アレックス・シアラー	竹書房
2018/5	銀色の記章	コルネイ・チュコフスキー	理論社
	運命の騎士	ローズマリ・サトクリフ	岩波書店
2018/6	パーフェクトコピー	アンドレアス・エシュバッハ	ポプラ社
	われはロボット	アイザック・アシモフ	早川書房
2018/7	エリコの丘から	E.L.カニグズバーグ	岩波書店
	レモンの図書室	ジョー・コットリル	小学館
2018/8	DVD 鑑賞『マレフィセント』		
2018/9	百年後、ぼくらはここにいないけど	長江優子	講談社
	ぼくはO・C・ダニエル	ウェスリー・キング	鈴木出版

月日	書名	著者名	出版社
2018/10	愛ときどき曇り	ジョン・ロウ・タウンゼンド	晶文社
	秘密の道をぬけて	ロニー・ショッター	あすなろ書房
2018/11	ある晴れた夏の朝	小手鞠るい	偕成社
	泥	ルイス・サッカー	小学館
2018/12	青春のジョーカー	奥田亜希子	集英社
	ヴァン・ゴッホ・カフェ	シンシア・ライラント	偕成社
2019/1	列車はこの闇をぬけて	ディルク　ラインハルト	徳間書店
	ぼくがきみを殺すまで	あさのあつこ	朝日新聞出版
2019/2	ジニのパズル	崔　実	講談社
	墓場の少年 ノーボディ・オーエンズの奇妙な生活	ニール・ゲイマン	KADOKAWA
2019/3	足音がやってくる	マーガレット・マーヒー	岩波書店
	ミルクウィード　天使の羽根のように	ジェリー・スピネッリ	理論社
2019/4	素数ゼミの謎	吉村仁	文藝春秋
	君たちはどう生きるか	吉野源三郎	岩波書店
2019/5	むこう岸	安田夏菜	講談社
	サリーおばさんとの一週間	ポリー・ホーヴァス	偕成社
2019/6	わたしは女王を見たのか	ヴァジニア・ハミルトン	岩波書店
	フラダン	古内一絵	小峰書店
2019/7	君が夏を走らせる	瀬尾まいこ	新潮社
	秘密をもてないわたし	ペニー・ジョエルソン	KADOKAWA
2019/8	DVD 鑑賞 『ニューシネマパラダイス』		
2019/9	太陽の戦士	ローズマリ・サトクリフ	岩波書店
	月白青船山	朽木祥	岩波書店

月日	書名	著者名	出版社
2019/11	羊の告解	いとうみく	静山社
	さよなら、田中さん	鈴木るりか	小学館
	星を見あげたふたりの夏	シンシア・ロード	あかね書房
	南西の風やや強く	吉野万理子	あすなろ書房
2019/12	ジグソーステーション	中澤晶子	汐文社
2020/1	ボグ・チャイルド	シヴォーン・ダウド	ゴブリン書房
	本屋さんのダイアナ	柚木麻子	新潮社

執筆者一覧（50 音順）

池田 信子　伊藤 規子　岩上　尚子　鵜飼　恵
内田 清子　大山 容子　奥村 公子
小畑 淳子　重村 ヒロミ　杉本 順子
杉山 登志枝　平井 吉子　渡部 詔子

『大人が読んでも 面白い Ｙ　Ａ　の　本　その２』

発行日　　２０２１年４月３０日
編　集　　ＹＡを楽しむ会
発　行　　小平市図書館友の会
〒187-0031　小平市小川東町 2-13-4-203　伊藤方
Tel　０９０－１７０７－０８３０
小平図書館友の会ブログ
http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/2021/04/post-ea5351.html